

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人京都教育大学

1 全体評価

京都教育大学は、社会の礎となる教育の役割を深く認識し、学芸についての深い研究と指導とをなし、教養高き人としての知識、情操、態度を養い、併せて教育者として必要な能力を得させることを目的としている。第3期中期目標期間においては、地域に密接して義務教育に関する教員の養成と支援の中心的役割を担いつつ、近畿地域を中心とした広範な地域の教員の養成・支援の一翼を担うため、教育に関する基礎的・実践的研究を進め、京都府・市教育委員会等と連携を深めるとともに、専門的な学識に裏打ちされた実践的指導力を有し現代的教育課題に対応できる教員の養成に加え、現職教員の支援等を通じて地域の教育の発展に貢献すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、現代的ニーズを踏まえた理系教員養成のためのカリキュラム開発に取り組むとともに、教員養成カリキュラムに対する学校現場のニーズの把握・分析を継続的に実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 大学院専門職学位課程（教職大学院）について、修了後5年を経過した修了生へのアンケート調査を継続するとともに、修了1年目の初任者教員の赴任校22機関を訪問調査し、校長や本人へのアンケート・聞き取り調査を行い、教職大学院での成果や課題を調査分析している。（ユニット「現代的課題に対応できる教員の養成」に関する取組）
- 異文化理解とコミュニケーション能力を備え、多文化共生社会で活躍できるグローバルな人材を育成するため、附属学校園と協働して幼稚園から高等学校までのグローバル人材育成に関する授業を系統的に結び付ける「グローバル・スタディーズ」の開発を進めている。（ユニット「グローバル人材の育成のためのカリキュラム開発」に関する取組）
- 京都教育大学、大阪教育大学、奈良教育大学の3大学が連携し、教員養成・研修の高度化と質保証、新たな学びに対応できる次世代教員養成の課題に協働して取り組んでおり、Web講義動画コンテンツ「先生を“究める”Web講義」34本を作成・提供するとともに、学校における研修や授業研究にも活用できるよう『先生を“究める”Web講義』活用の手引き」を配布した結果、平成29年度新規登録者数は210名、総登録者数は708名になっている。（ユニット「リージョナルセンターとして教員養成・研修の高度化推進」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 公式動画サイトによる情報発信の多言語化

学生の教材研究力・ICT活用能力の向上や学校現場及び家庭での小・中学校各教科の学習サポートを目的として、学生作成・教員監修による大学公式チャンネルでの動画発信に取り組んでおり、このうち算数・数学の動画は日本語に加えて5か国語版（韓国語、中国語、英語、ポルトガル語、ベトナム語）を作成・公開している。（455本、視聴総数20,853回）

（4）その他業務運営に関する重要目標

①施設・設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 現代的ニーズを踏まえた理系教員養成のためのカリキュラム開発

理数教育を分かりやすく教えられる小学校教員及び理系教科に精通した中・高等学校教員の育成を目指し、全学生対象「理系ジェネラリスト（リケジェネ）」、理系学生対象「理系スペシャリスト（リケスペ）」のカリキュラム開発と認定基準の策定を進め、当初予定を前倒しして平成30年度からの運用を決定している。